

東京港第9次改訂港湾計画に向けた 長期構想検討部会（第5回）

物流（その他：小型船だまり等）検討資料

目次

内容	頁
【検討の流れ】	
物流（内貿・在来・その他） 検討の方向性（第1回検討部会 提示資料）	3
物流（その他：小型船だまり等）の検討対象範囲	4
現在の東京港の水域利用状況	5
小型船だまりの水域利用状況	6
物資補給岸壁等の水域利用状況	7
水域の利用状況	8
「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）	9
物流（その他） 取りまとめの方向性（素案）	10
【参考】東京港を支える様々な船舶①	11
【参考】東京港を支える様々な船舶②	12
【参考】東京港を支える様々な船舶③	13
【参考】東京港を支える様々な船舶④	14

東京港の役割

- 首都圏の生活と産業を支える都市インフラとして、首都圏に必要な貨物を確実かつ円滑に取り扱う機能
- 限りある港湾空間を効率的に活用するとともに、ストック効果を最大限発揮することで都民生活の向上を図る

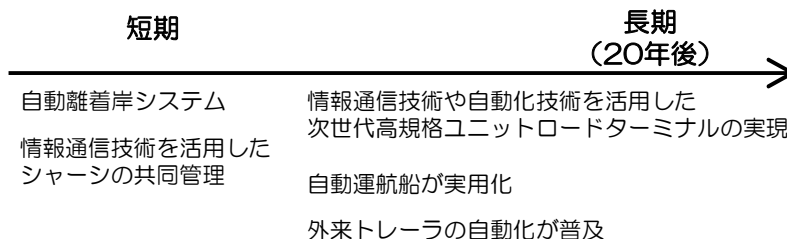
現状と課題

- 内貿ユニット貨物・フェリー貨物は増加傾向となっている
- 北海道・九州・沖縄方面と多頻度な航路サービスで結ばれている
- 背後圏への充実した道路ネットワークにより、生産地・消費地への輸送距離・輸送時間が短い優位性がある
- 貨物の集中により、ユニットロードターミナル・フェリーターミナルのヤードが不足している
- 時代の変化に伴い、利用頻度が低下し、又は利用形態が変化しているふ頭、水域が存在している

情勢の変化

- RORO船・フェリーの大型化が進展している（ヤードが更に必要）
- トラックドライバーの不足が深刻化するなか、大量輸送が可能で環境にやさしいRORO船・フェリーの重要性が高まっている
- 内航船においても、自動運航船など、最先端技術を活用した検討が進められている
- 内港地区を中心に、ふ頭背後の都市化が進展している

社会における技術革新の進展イメージ



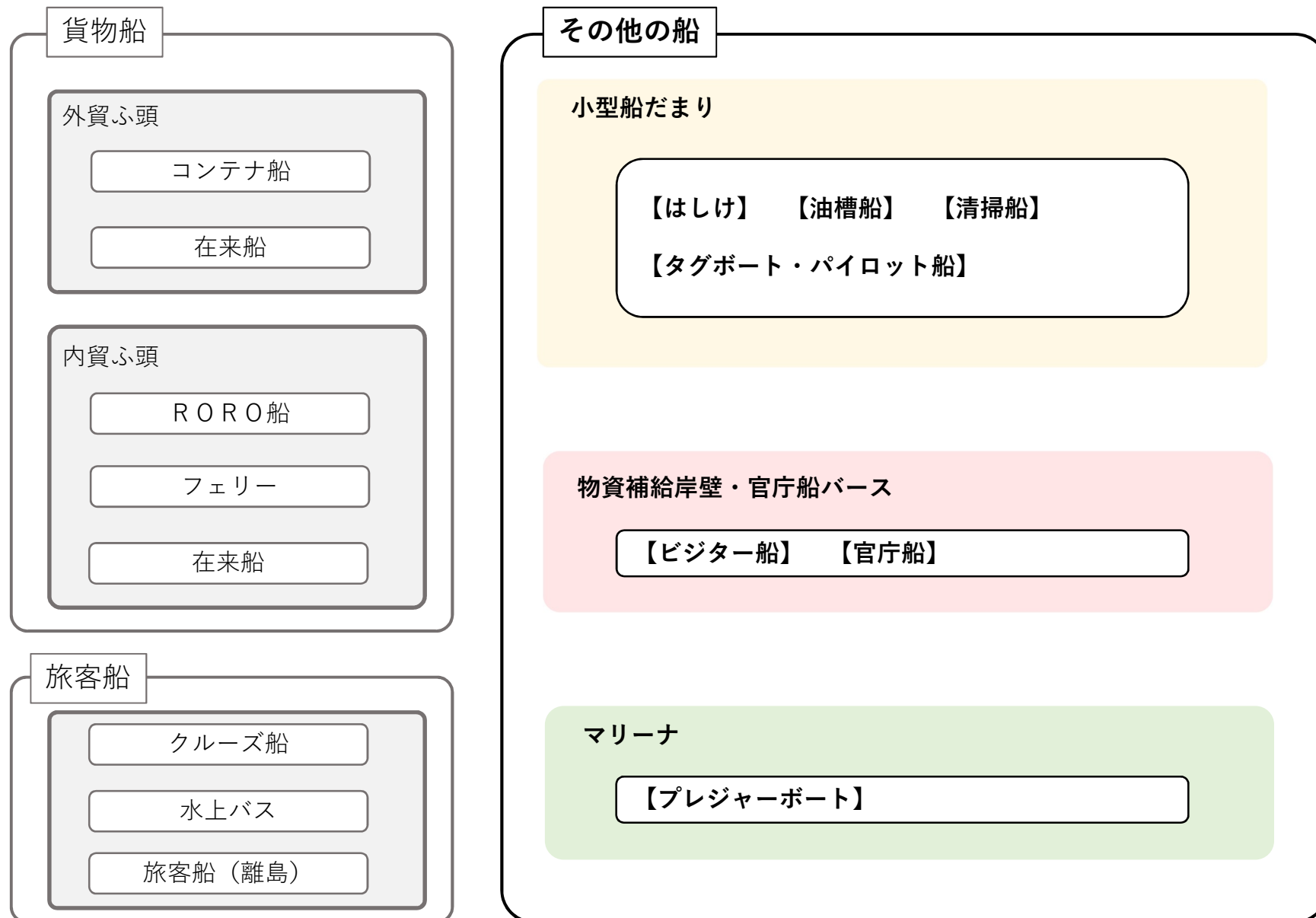
東京港の目指すべき将来像

- ユーザーに選ばれる、競争力が高く使いやすい港に進化している
- 最先端技術を積極的に活用し、労働環境が良く高効率で生産性の高い港になっている
- 適切な機能配置と運営により、限られた港湾空間が効率的に活用されている
- 災害時にも物流活動を維持できる、強靱な港に進化している
- 脱炭素社会や循環型社会の実現に、港湾エリアが大きく貢献している

検討の視点

- 狭隘な東京港において、港全体の機能強化を図っていくためには、利用頻度の低下したふ頭や水域を、今後どのような用途・目的で活用すべきか
- 労働力不足が危惧される中、働きやすい港づくりを行い、港湾の生産性を向上させるためには、どのような取組が必要か
- ユニットロードターミナル・フェリーターミナルのヤード不足に対応するため、どのような取組が必要か

物流（その他：小型船だまり等）の検討対象範囲



現在の東京港の水域利用状況

○ 小型船だまりや物資補給岸壁、官庁船バースなど、東京港には様々な用途の施設が存在している



分類	主な利用船舶	主な施設の位置
小型船だまり	はしけ 油槽船 清掃船 タグボート パイロット船	① 芝浦 ② 大井ふ頭その1 ③ 大井ふ頭その1 その2間 ④ 大井ふ頭その2 ⑤ 13号地 等
物資補給岸壁	ビジター船	⑨ 月島 ⑩ 晴海 等
官庁船バース	官庁船	⑭ 晴海 ⑮ 台場
水域	—	⑰ 旧豊洲貯木場 ⑱ 旧新砂貯木場 等
マリーナ (公共)	プレジャーボート	⑳ 夢の島

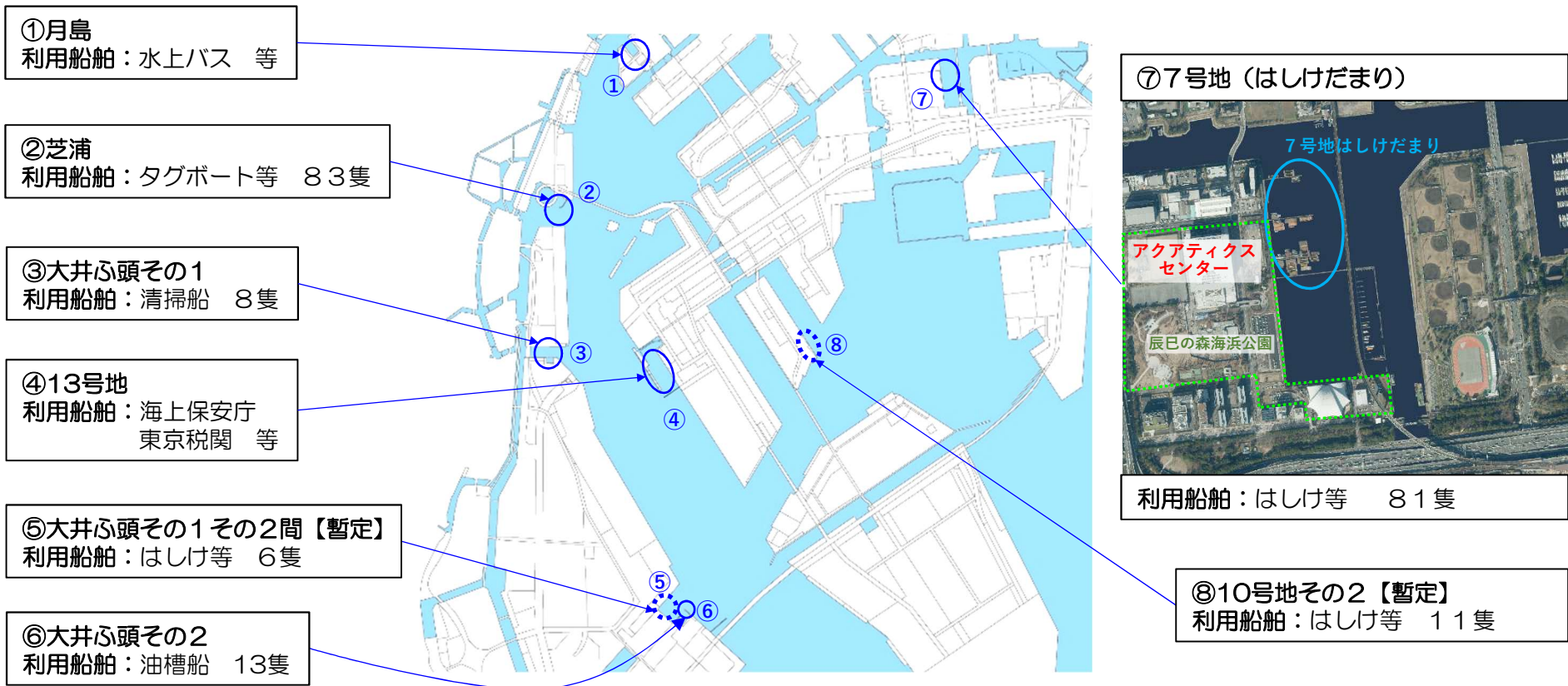
小型船だまりの水域利用状況

【現状・役割】

- 東京港への船舶入出港を支援するタグボート、船舶への給油を行う油槽船や港内清掃を行う清掃船など、港を支える船舶の係留に対応
- 東京港内の海上工事で使用するはしけ等を係留

【課題・情勢変化】

- 小型船だまり周辺の土地利用が変化している



物資補給岸壁等の水域利用状況

【現状・役割】

- 船舶係留及び燃料や飲料水など物資補給のための係留施設として、ビジター利用等に対応
- 海上保安庁や水産庁など、東京港を支える官庁船の係留場所も確保されている

【課題・情勢変化】

- 再開発等により係留施設背後地の土地利用が変化している



水域の利用状況

【現状・役割】

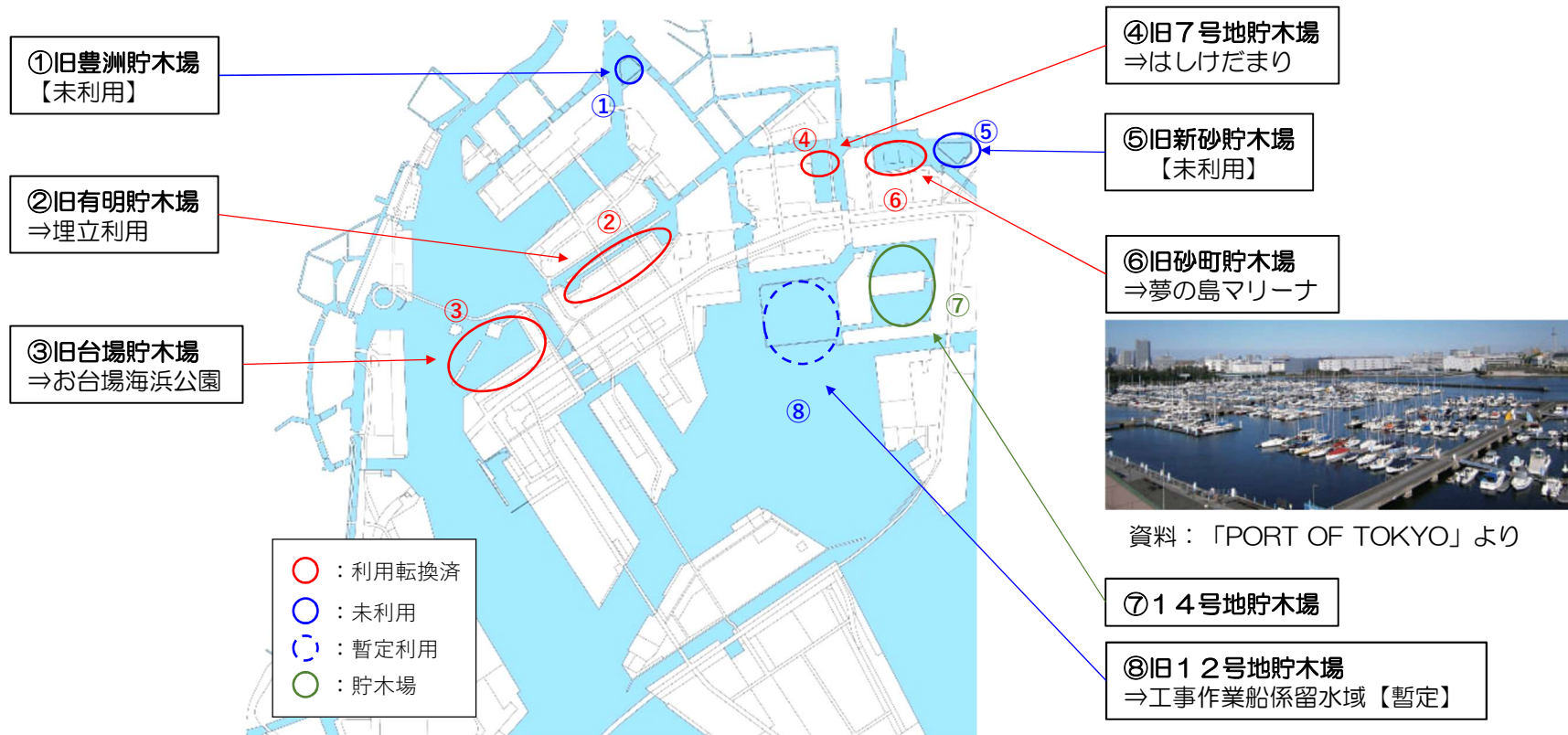
○ 原木取扱量は昭和48年をピークに減少に転じ、一部は、海上公園、マリーナ等への利用転換が図られている

【課題・情勢変化】

○ 木材輸入の荷姿が原木からコンテナに変化したことにより、原木の取扱がなくなっている

○ 貯木場としての機能を廃止したあと、未利用や暫定利用となっている水域も存在している

○ プレジャーボートの係留需要が高まっている



「検討の視点」を踏まえた施策の方向性（案）

狭隘な東京港において、港全体の機能強化を図っていくためには、利用頻度の低下したふ頭や水域を、今後どのような用途・目的で活用すべきか

施策の方向性	施策のイメージ
利用の低下した水域における、新たなニーズへの対応など、利用転換を検討する	• 係留施設背後地の土地利用や取扱貨物量の変化、マリーナの係留需要などの動向を踏まえた、水域の活用を検討していく

物流（その他） 取りまとめの方向性（素案）

進化し続ける未来創造港湾 東京港 物流（その他）

水域利用

[骨子]

東京港を支える 機能の確保

- 東京港を支える様々な船舶の係留施設を適切に確保する
- 小型船だまりや物資補給岸壁周辺の土地利用の変化や、船舶の次世代エネルギーへの転換、自動運航船などの技術進展の動向を踏まえ、機能や配置のあり方を検討していく

低未利用水域 の活用

- 係留施設背後地の土地利用や取扱貨物量の変化、マリーナの係留需要などの動向を踏まえた、水域の活用を検討していく

【参考】東京港を支える様々な船舶 ①

- タグボートは、大型船舶の離着岸や方向転換のサポートをする船舶
- パイロット船は、大型船舶の入出港を支援するために乗り込む、水先人（パイロット）が乗船する船舶

■ タグボート



(主な作業内容)



- ・ 大型のコンテナ船等の方向転換をサポートする

資料：内航曳船(株)HPより

■ パイロット船



(主な作業内容)



- ・ 待機する船舶に横付けし、水先人を船舶に乗り込ませる
- ・ 水先人は船長を支援し、着岸までサポートする

資料：国土交通省海事局HPより

【参考】東京港を支える様々な船舶 ②

○ 東京港には、海上工事等に使用されるはしけ（舢舨）、船舶への燃料を輸送・給油する油槽船や港内清掃を行う清掃船など、多様な船舶が存在している

■ はしけ（舢舨）



土砂や工事資材を運搬する船舶
資料：東京はしけ運送事業協同組合HPより

■ 油槽船



船舶への燃料を輸送・給油

資料：芝浦海運(株)HPより

■ 清掃船



海面に浮遊するごみを回収

■ クレーン付台船



海上工事での資材の吊上・据付

資料：（一社）日本作業船協会HPより

【参考】東京港を支える様々な船舶 ③

○官庁船として、消防艇や測量船など、多様な船舶が存在している

■浚渫船（東京都港湾局）



■測量船（東京都港湾局）



■消防艇（東京消防庁）



■練習船（東京海洋大学）



資料：東京都港湾局HPより

資料：東京海洋大学(株)HPより

【参考】東京港を支える様々な船舶 ④

○ プレジャーボートやヨットなど、多様な船舶が存在している

■ プレジャーボート



資料：国土交通省「平成30年度プレジャーボート全国実態調査の概要について」より

■ ディンギーヨット



資料：NPO法人マリンプレイス東京HPより